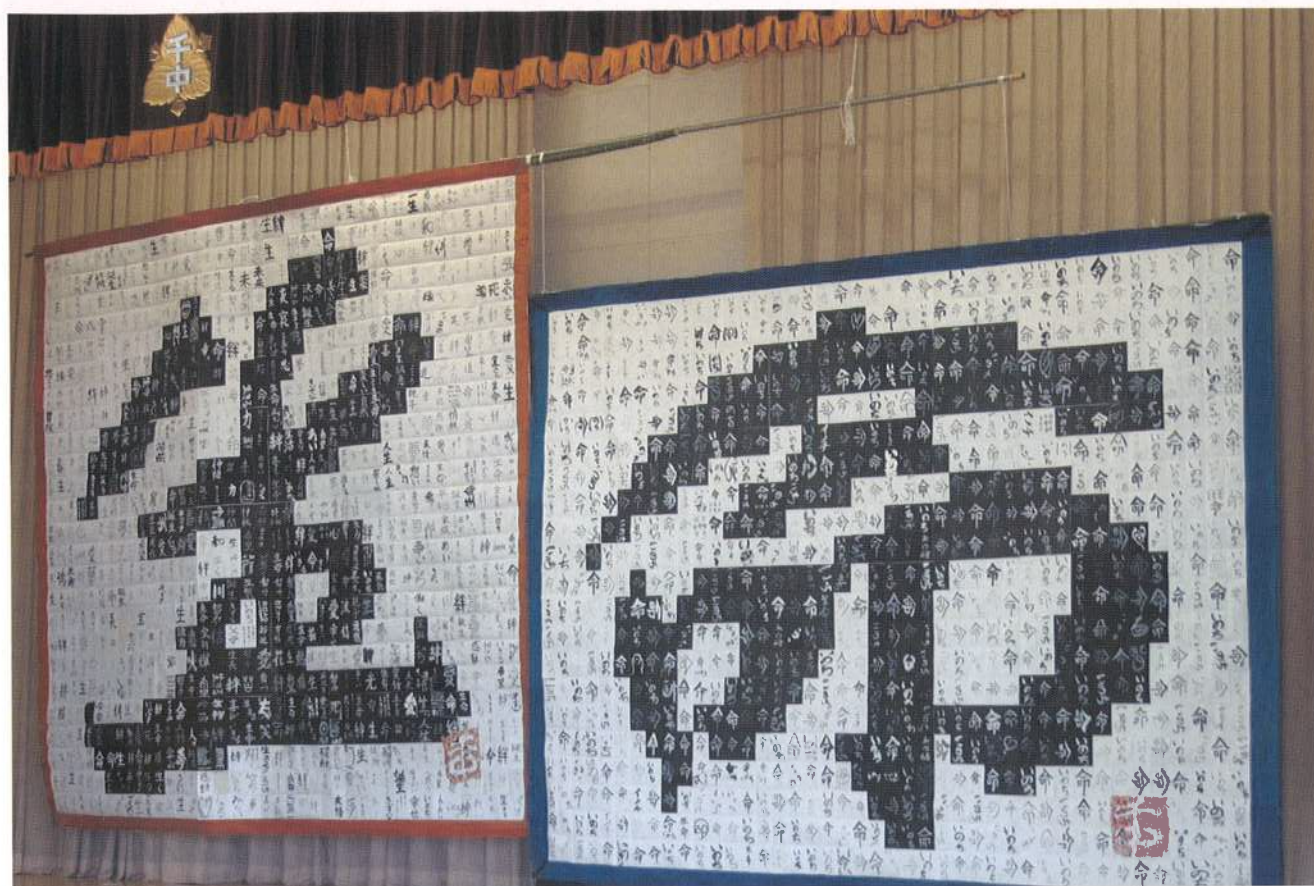


平成17・18年度 豊かな体験活動推進事業  
「命の大切さを学ばせる体験活動に関する調査研究」

子どもたちに命を大切にする心をはぐくむために



上の写真は、豊後大野市立千歳中学校の体育館に飾られた「いのちのパネル」です。生徒が、先生が、保護者が、地域の方々が、それぞれの思いを込めて「いのち(命)」と書いた2000枚のカードによってつくられています。

私たちの命は、このパネルと同じように、多くの命に囲まれ、関わり合い、支えあっているのではないのでしょうか。

ここに、様々な体験活動をとおして、子どもたちに命の大切さを実感させてきた4校の実践と、それをもとに私たちが検討してきた命の大切さを実感できる体験活動にするための視点を紹介させていただきます。

是非、これらを参考にして、各学校における命の大切さを学ばせるための教育活動をより一層推進していただきたいと願っております。

平成19年3月

「命の大切さを学ばせる体験活動」実施・検討委員会



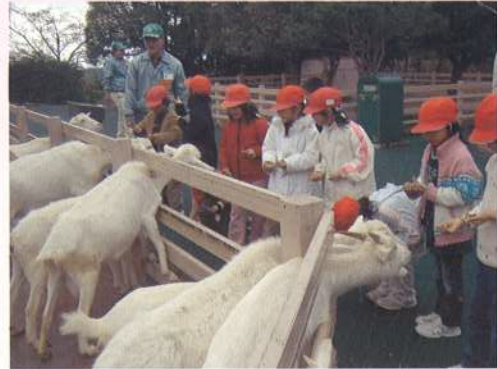
# 命の大切さを学ば



## 動植物の飼育栽培に関わる体験活動



「小さな苗にも同じ命」  
農家で苗づくり作業体験  
豊後大野市立千歳中学校



「もう、やぎさんと仲良しだよ！」  
豊後高田市立河内小学校



「野菜を育てるためには準備が大切」  
豊後大野市立千歳小学校  
棚作り作業

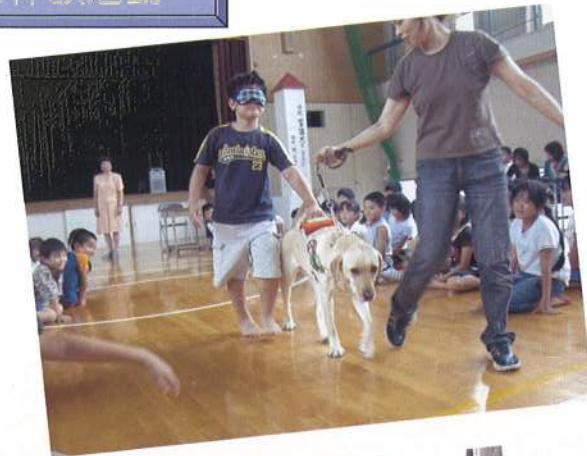


## 介護など社会奉仕に関わる体験活動



「かがやく命はきれいな環境から」  
地域の清掃活動

豊後大野市立千歳中学校



「君がいるから安心なんだね。」  
盲導犬体験

豊後大野市立千歳小学校



「私たちが、心を開いて対応することが大切なんだと感じました。」

高齢者福祉施設での介護体験

臼杵商業高等学校



# せる体験活動とは？

## 乳幼児や高齢者等との交流に関わる体験活動



「おじいさんの技、すごいね！」  
 祖父母学級での高齢者との交流  
 豊後大野市立千歳小学校



「お母さんも、こうして昼寝をさせてくれたのかな。」  
 保育園での体験活動  
 臼杵商業高等学校



「大勢の人と知り合うこと、  
 それが心の支えになります」  
 菊池恵楓園での意見交流会  
 豊後大野市立千歳中学校

## その他の体験活動



「ぼくたちの思い、うまく伝わるかな。」  
 関係者を招いての体験発表会  
 臼杵商業高等学校



「ユニバーサルデザインって何だ？」  
 県福祉保健企画課によるUD出前授業  
 豊後大野市立千歳小学校



「ぼくたち、どれくらい大きくなっ  
 たのかな？」  
 生まれたときと今を比べて  
 豊後高田市立河内小学校



# 「いのち・ふれあい・学びあい」

—体験活動を中核とした指導の中で—

## 豊後高田市立河内小学校の実践

命の大切さを「直接命を見つめる体験」と「命の大切さをはぐくむ体験」の二つの場で、「いのち・ふれあい・学びあい」の具体的活動を組むことにより、心豊かでたくましく生きる児童を育成する。

### 第6学年 誰もが住みやすい社会をつくろう

#### いのちの活動

障がいのある方(きらめきゲスト)と出会い、生きることの大切さを学ぶ

#### ふれあいの活動

車椅子での一日生活体験をとおして、人と人とのつながりや助け合いの大切さを実感する

#### 学びあいの活動

これまでの体験活動などで学んだこと、感じたことを交流し、自分たちにできることを考える



#### 成果

- 食や人とのふれあいという体験活動を教育課程に位置づけ、豊かな体験を計画的に実施したことでいのちが尊いものであることを実感したり、自分を大切にすると同時にまわりの人をも大切に必要性に気がついた。
- 推進委員を中心にゲストティーチャーが体験を支えたことで、言葉や単なる体験からの理解でなく実際に携わった人の思いが伝わってきた。
- 2年間のいのちを大切にす体験活動により、「いのちは一つ」が全校児童の合い言葉になった。

#### 課題

- 体験活動から生まれた「ものを大切」にする気持ちや、「思いやり」、「感謝」の心を自分たちの生活の中に生かし、実践化するための体験活動をどのように仕組んでいくか。
- いのちを大切にす第一歩は自分のいのちを守り大切にす態度を育てることである。そのため心や体の成長についての体験活動の場を設けて共通理解を図りながら、系統立てて取り組むとともに地域や保護者と連携していく必要がある。



# 命の大切さを実感する体験活動 — 6つの視点からのアプローチ —

## 豊後大野市立千歳小学校の実践

命を6つの視点からとらえ、学年別、全校農園、ふれあい交流等において、アプローチする視点を焦点化した体験活動を実施することにより、命の大切さを実感し、生活の中に生かすことのできる児童を育成する。

● **偶然性**・・・誕生は偶然であり奇跡である



スイカの人工受粉

● **神秘性**・・・自然の不思議さ



種から実への変化の大きさ

● **有限性**・・・命はひとつである



ひよこの誕生とその死

● **連続性**・・・命は受け継がれる



茎の折れたきゅうりが命をつなぎ収穫できたきゅうり

● **関連性**・・・命は互いに関わり合う



カメムシの命を犠牲にしてできたピーマン

● **平等性**・・・どの命も同じ



一生懸命生きる人の生き方に学ぶ

### 成果

- 命を6つの視点からとらえることで、ねらいを焦点化できた。
- 発達段階に応じて活動を組むことで主体的に活動でき、命の大切さについて実感したことを生活の中に生かす子どもが増えてきた。

### 課題

- 教師自身の感性（「命」を感じるアンテナ）が高まった。さらに感性を高める努力をし、体験活動を充実させていきたい。
- 偶発的な体験活動にも柔軟に対応できる教師の力量を高めていきたい。
- 地域社会の中で生きていく子どもたちを念頭におき、日常的な地域との連携を図っていきたい。

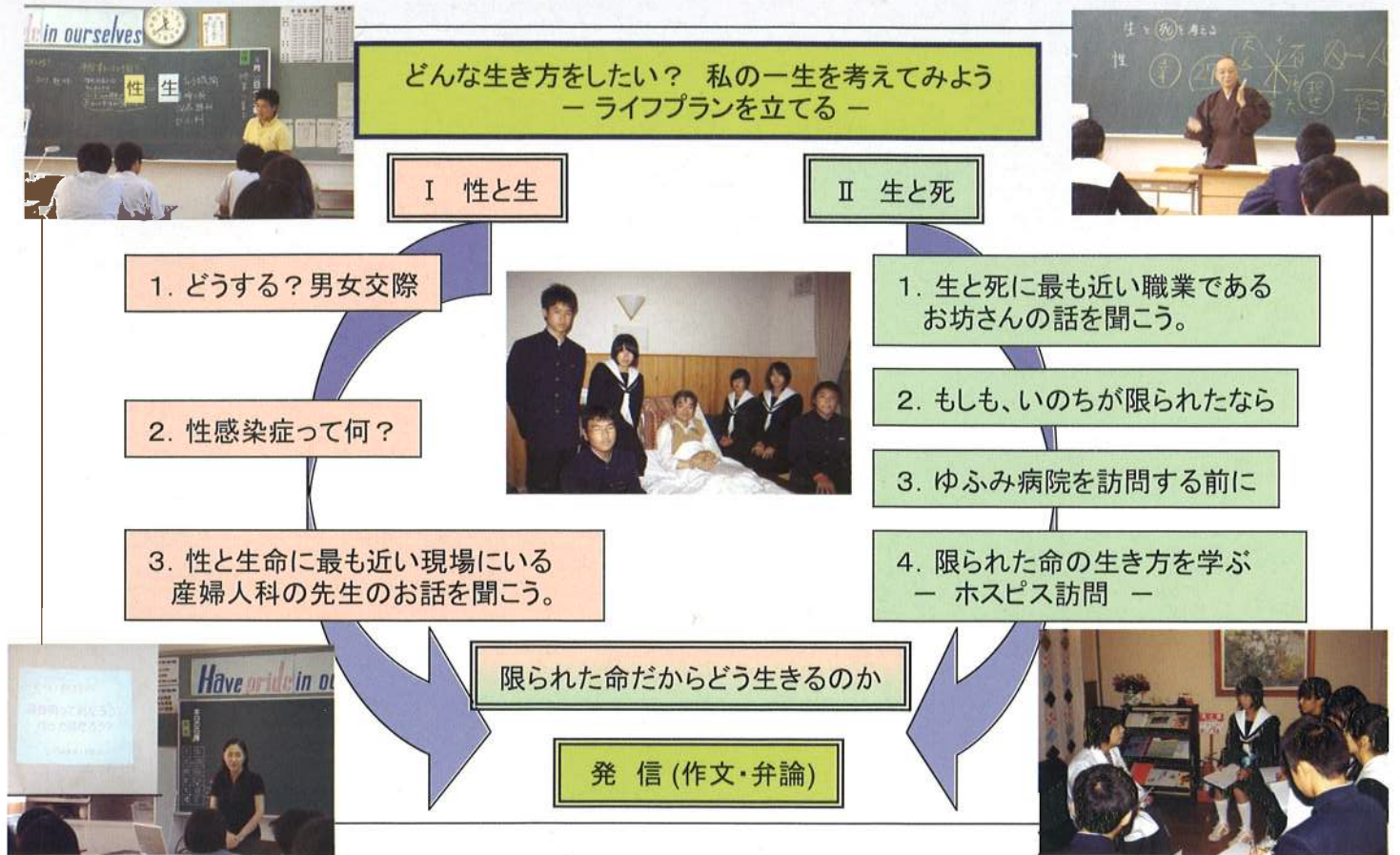


# 命の大切さを学ばせる学習プログラム

— 性と生を考える・生と死を考える —

## 豊後大野市立千歳中学校の実践

「性と生」、「生と死」を考える体験活動を展開することにより、自分の身体と心や相手の身体と心を大切にし、誰もが限られた命であることを自覚させ、毎日を丁寧に生きようとする態度を養う。



### 成果

- 「命を大切にする」を、「自分や周りの人を大切にしながら丁寧に生きる」こととして取り組んだ。このことにより、お互いを思いやる心や周りの人の素晴らしさを認める気持ちが身に付いてきている。
- 命に触れる機会が少ない日常の中で、死と向き合いながら生きている人、それを支えている人々の姿をホスピス訪問で目の当たりにし、「かけがえのない命を生きること」の大切さを確認することができた。
- 体験を通して学びえた「命を大切にしよう」というメッセージを、文化祭等で他学年や家庭・地域へと広げることができた。

### 課題

- 自他の生命を大切にする心をはぐくむために、命に触れる活動を展開するなかで認め合う場面や達成感を味わう場面を設定し、自尊感情を醸成することを目指してきた。今後は、より一層自他の命を大切にする生徒像を具体化させるとともに、命に触れ、「生」について考える機会を生徒に提供していくことが重要である。

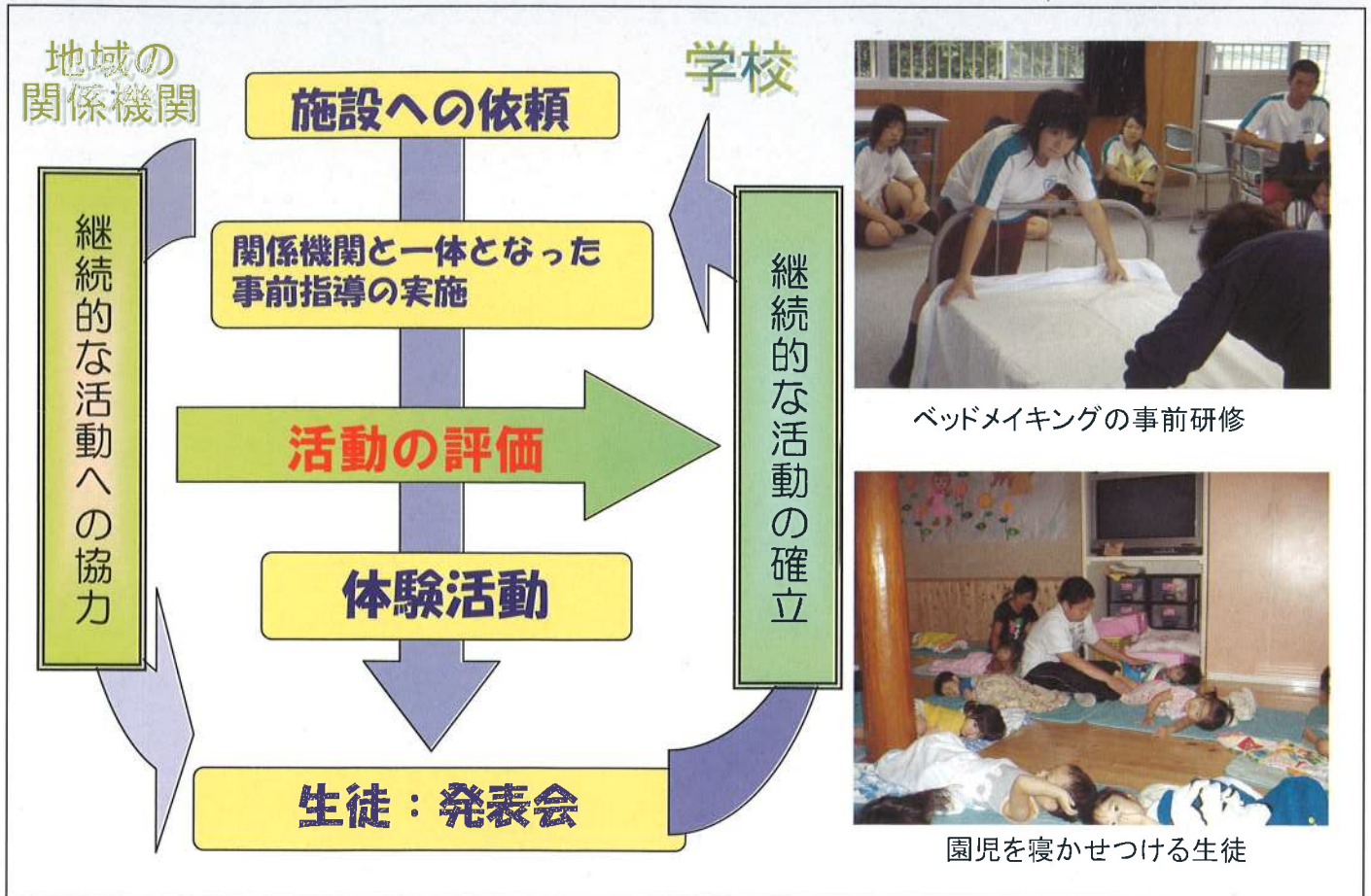


# 命の大切さを学ばせる体験活動

—地域の関係機関等との連携—

## 県立臼杵商業高等学校の実践

生活する地域の保育園や介護施設で体験活動を行うことにより、他者と自己の命の大切さを学ぶとともに、たくましく心豊かな「地域の次代を担う人づくり」を推進する。



### 成果

- 幼児や高齢者、また、それらの人々と日々接する仕事に携わる多くの人々とかかわることにより、命の大切さや思いやりなどを実感しながら学ぶことができた。
- 体験活動を通して生きがいなどを考えると同時に、望ましい職業観・労働観を育成する機会となった。
- 関係機関の方々に、事前指導、体験活動、事後の発表まで継続して関わっていただくことにより、活動全体を評価していただくことができた。また、その評価を次年度の活動に生かしていくこともできた。

### 課題

- 「学ばせていただく」という謙虚な態度と、世代の異なる職員や施設利用者とのコミュニケーションの取り方を事前指導で養う必要がある。

## 「命の大切さを学ばせる体験活動」実施・検討委員会からの提言

### 命の大切さを実感できる体験活動にするための4つの視点

- 1** 体験活動を効果的に実施するためには、子どもたちの発達段階や校種・学年段階に応じた活動となるよう留意することが重要です。そのためには、「付けたい力」「はぐくみたい心」を明確にして、教育課程に適切に位置付け、計画的に実施することが大切です。
- 2** 実感できる体験活動にするためには、「みる、触れる、におう、味わう、聴く」など、五感をとおした活動にする必要があります。そのためには、家庭や地域、関係機関等との連携を十分に図っていくことが大切です。
- 3** 事前指導では、体験活動のねらいを明らかにすることにより、子どもたちが問題意識をもって活動できるように留意し、事後指導では、しっかりと活動を見つめることにより、活動が発展、継続していくように留意することが大切です。
- 4** 実際に行った活動は、ねらいに照らして評価するとともに、それを次の指導の改善に生かしていくことが必要です。そのためには、指導する教師だけでなく、子どもたちや協力していただいた学校外の方々からの評価を求めることが大切です。

#### 「命の大切さを学ばせる体験活動」実施・検討委員会

委員長 堀 泰樹

(大分大学教育福祉科学部 教授)

副委員長 山岡 憲夫

(大分ゆふみ病院 院長)

委員 岩永希志子 (豊後高田市立河内小学校 教諭)

大林 眞二 (豊後大野市立千歳中学校 教諭)

安田 憲司 (豊後高田市教育委員会 指導主事)

西永 和夫 (福祉保健企画課 副主幹)

事務局 三浦 徹夫 (義務教育課 参事)

佐藤 祐子 (豊後大野市立千歳小学校 教諭)

吉岡 信也 (県立臼杵商業高等学校 教諭)

衛藤 浩 (豊後大野市教育委員会 指導主事)

神田貴代美 (体育保健課 指導主事)

川上修司 (義務教育課 指導主事)